



発行日：平成 25 年 11 月 26 日  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆矢作川流域圏懇談会の第 14 回川部会 WG を開催しました！

現地調査では、台風 18 号による被災状況（高橋右岸付近）と県管理区間の代表的な瀬淵を現地確認し、瀬・淵の現状や課題について確認しました。意見交換では、グループワークと全体ワークにより、「瀬・淵」についての意見交換を深めることができました。

日時：平成 25 年 10 月 18 日（金）  
13:15～18:00

集合場所：新豊田駅

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：23 名（事務局含む）

### ◆WGで決まった主な内容

- 多様な生息環境、物理環境を目指していくこと、その手段として、低水路幅が一つのポイントになることについて共有しました。
- 今後、動植物にとって、魚にとって、利用者（人）にとってなどの観点でブレークダウンして整理する必要がある。
- まだわかっていないこととして、越戸ダムから流下してくる土砂、越戸ダムの堆積土砂、低水路幅拡幅による河道の応答などがあることがわかった。
- 矢作川水系総合土砂管理検討委員会（以降、土砂管理委員会）に対しては、土砂供給の情報と越戸ダム下流の環境をどう捉えているかの情報提供をお願いします。
- 矢作川本川（平戸橋から下流）は治水上の重要性が高く、国交省と愛知県が連携した継続的な調査（横断測量、河床材料など）を実施できるとよい。



全体ワークの様子

### ◆意見交換内容

#### 第 1 部：矢作川現地調査

現地調査では、高橋右岸付近の台風 18 号による被災状況と県管理区間の代表的な瀬・淵の現状について確認しました。



高橋右岸付近の被災の様子  
（河岸が削られている）



ワンド付近の調査の様子  
（出水後もワンド形状は保持）



古鼠水辺公園の対岸付近から  
河道の変化状況を確認

#### 第 2 部：意見交換



##### (1) グループワーク

2グループに分かれて、瀬淵の位置がわかる大判の航空写真を見ながらの意見交換を行いました。

##### ■内田先生グループ

内田先生グループを代表して、菅原氏に発表いただきました。

- 瀬・淵の中でも、その周囲に河畔林が多かったり、地形が変化していくような場所が、良い瀬・淵だと思う。
- 箆川の下流には、浅瀬と深みが連続していて、生物がすみやすいところである。
- 外来種のオオカナダモがいるからといって、一概に悪い環境とせず、場所ごとに指標が異なるのではないか。
- 出水後に川に手を入れて、よい環境をつくっていく必要がある。



グループワークの様子

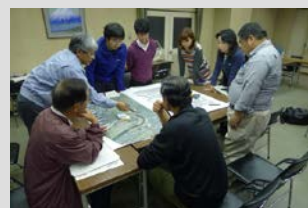


発表の様子

## ■驚見先生グループ

驚見先生グループを代表して、光岡氏に発表いただきました。

- 高橋上流は瀬淵が交互に連続して表れている。上下に変化があることで、生息できる生物の種類は多くなり、魚相は豊かになる。
- 久澄橋下流は上下流の変化に乏しいので、左右に変化があるとよい。白浜工区の試験施工の試みは、その点でも意味がある。
- 瀬・淵の分布が、どの程度の密度で広がっているとよいか、今後、考えていく必要がある。
- 人が水に触れやすい場所は矢作川本川に少なく、近寄りやすい場所を確保することも必要である。
- 治水面だけでなく、動植物にとって、魚にとって、人にとっての視点で見していきたい。



グループワークの様子



発表の様子

## (2) 全体ワーク

全体ワークで出された主な意見は、以下に示すとおり。

- ・瀬・淵とワンドは性格が異なるので、組み合わせて考えると、多様な環境を目指せるのでは。(本守)
- ・河道掘削を工夫すれば、変動を促がせると思う。河道掘削の検討をする機会があれば懇談会に諮ってほしい。矢作ダム完成後の矢作川の癖を参考にしながら、掘削できると良い(内田)
- ・上流から流下してくる土砂粒径がわからないことがネックなので、越戸ダム堤体近くの固定点で、堆積土砂を調査する必要がある。(内田)
- ・調査主体を中部電力に依頼→国交省・愛知県に依頼→WGで調査の3段階として、どこまで検討できるか検討する必要がある。(驚見)
- ・土砂管理委員会では土砂収支を流域全体の枠組みで計算しているが、WGとしては瀬・淵の形状が予測できる精度で流下してくる土砂の情報が必要である。(驚見)
- ・土砂管理委員会が、下流環境をどう捉えて提言しているかは確認したい。(驚見)
- ・愛知県管理区間では、横断測量や河床材料のデータが少ないため、検討するにも情報が不足している。矢作川本川(平戸橋から下流)は治水上の重要性が高いので、国交省と連携した調査ができるとうい。(内田)  
→可能性は高くないが持ち帰って検討したい。継続的に実施できればよい。(清水)
- ・低水路幅を議論するには、低水路幅拡幅による河道の応答を把握することがまず必要である。(驚見)
- ・この場で具体的な目標を定めることは難しいが、低水路幅がポイントになることは、WGにおける合意事項としたい。(内田)
- ・河川整備計画では、矢作川本川にまだ河道掘削する場所が残っており、WGとの共同研究テーマになるのではないかと。(本守)
- ・みんなが利用する環境や漁業・釣り、生物の観点でブレークダウンして整理して、何に貢献する多様性を考えるのか議論する必要がある。(驚見)
- ・多様な生物生息環境とその物理環境を目指すことは合意できたと思う。(内田)
- ・上流の境界条件がわかったとして、大河川で土砂供給のシミュレーションを実施した場合に、結論は出せるか。(本守)
- ・短期的には計算できると思うが、長期的には確率的な問題があり難しいと思う。(溝口)

## 今後の川部会 WG の予定

### ■第15回(本川モデル+家下川モデル)

日時:平成25年11月26日(火)18:00~20:30

場所:豊田市職員会館(予定)

活動内容案:矢作川の河川環境の方向性(本川モデル)  
水源確保(家下川モデル)等

### ■第16回(地先モデル+α)

日時:平成25年12月20日(金)18:00~20:00

場所:未定

活動内容案:地先モデルの各検討課題に  
ついて意見交換



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

